



2016年10月11日発行

2016年10月号(通算193号)

東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002 東京都国立市東1-4-20-102
TEL 042-577-6181 FAX 042-577-5574

【2016~2017主題】

国際会長	Joan Wilson	「Our Future begins Today」
アジア地域会長	Tung Ming Hsiao	「Respect Y's Movement」
東日本区理事	利根川 恵子	「For the Future, Act Today!」
あづさ部長	浅羽 俊一郎	「あづさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ！」
東京武蔵野多摩会長	山口 直樹	「一步一步前に進もう。Yと共に！」

【クラブ役員】

会長	山口直樹
副会長	板村哲也
副会長	伊佐節子
会計	宮内友弥
書記	渡辺大輔

2016年
今月の聖句

御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になってはいけません。
(ヤコブの手紙1章22)

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

五つの誓い

- 1.自分を愛するように隣人を愛そう
- 2.青少年のためにYMC Aに尽くそう
- 3.世界的視野をもって国際親善を図ろう
- 4.義務を果たしてこそ権利が生ずる事を悟ろう
- 5.会合には出席第一、社会には奉仕第一を旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

- 1.個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMC Aの活動を支援する。
- 2.ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
- 3.地域社会や国際的な問題に关心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
- 4.宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員を啓発し、積極的に参加させる。
- 5.健全な交友関係を作り出す。
- 6.この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

10月例会プログラム

強調月間：EMC-E、YES

日時：10月12日(水) 18:45~21:00

※開始時間が通常と異なります、ご注意ください

場所：東京YMCA西東京コミュニティセンター

司会：大輪 受付：板村

ドライバー：野尻 聖書朗読：山口

第1部 リーダー活動報告

*西東京YMCAのリーダーたちから、研修会参加報告・活動報告を聞きます。

第2部 懇親会 司会：山口

*今感じていること、考えていることなど自由に話せる時間。より親しくなれるようグループに分かれて、飲み食いしながら懇親の時を持ちます。

*今月のハッピーバースデー

伊佐さん

9月例会報告

在籍者	13名
出席者	9名
メーキャップ	2名
出席率	85%
ゲスト	0名
ビジター	10名
ネット・コメット	1名
にこにこ	10,726円

EBBA賞受賞

宮内友弥

去る8月の台北での国際大会にて図らずも我クラブが壇上で国際から表彰されるという栄に浴しました。EBBA賞(Extension Beyond the Border Award 国境を超えたエクステンション賞)は、2014-2015国際会長のIsaac Palathinkalが国を超えたエクステンションを奨励するために新設した賞で、我クラブがモンゴルウランバートルクラブを共同でスポンサーした香港TSTクラブと共に本賞の第1号受賞者となりました。表彰は、大会2日目午前中の部でプログラム「Time for EBBA」が設けられIsaacから立派な盾とバッジを授与され、Isaacを始め多くの方からおめでとうの言葉を貰いました。ただ肝心のウランバートルクラブは、20人いたチャーターメンバーが現在8人に減ってじり貧状態にあります。スポンサークラブとして今後の支援体制をどうするか早急にTSTクラブと協議、検討を行う必要があります。

なお最後になりましたが、この賞を頂けたのも物心両面でご支援いただいた東日本区の皆さんのお陰でありこの紙面を借りて改めてお礼申し上げます。

(独り言：立派な盾をよく見るとクラブ名がTokyo Tama Musashino-tama Clubとなっていたのはご愛敬？ またプログラムの時間帯が悪かったのか、多くの方が観光ツアーにお出掛けでギャラリーが少なかつたのが残念！)



2016年9月例会報告

日時 9月14日19時～

会場 東京YMCA西東京コミュニティーセンター

司会：板村 聖書・祈禱：小坂 受付：大輪、清水

ドライバー：野尻

メンバー：9名 ビジター：10名

「やれること、やりたいこと、やらねばならぬこと」

東京都立多摩総合医療センター（在府中市）（以下「センター」）検査科の江夏一彰さんに「やれること、やりたいこと、やらねばならぬこと」と題してお話し頂きました。

江夏さん（46才）は平日はセンターの医師として勤務される傍ら、休日は日本聖公会軽井沢の執事として奉仕活動をおられます。（経歴詳細はブレイン2016年9月号参照）。

最初に自己紹介と専門分野である病理学（診断と病理解剖）について具体例を用いた分かり易い説明があり、医務に携わる一方、センター内や看護学校で後輩の育成、指導に当たっておられるとの説明がありました。またワイズメンとしての所属は長野クラブであるが東京武蔵野多摩クラブの例会に出席することになった（しかも頻繁に）いきさつ（当クラブのメンバーとの繋がりと職場と当クラブが近いこと）についてお話がありました。

続いて本日のテーマの基である「健康増進カフェ」

（以下「カフェ」）についてお話をありました。

センターの中にNPO法人「多摩の医療健康増進フォーラム」が立ち上がったのでこれに入会し健康増進に関する講演を行ってみたが、場に違和感が有った。病院・医者と患者・患者の家族の間に垣根があることが感じられた。この垣根を低くしたいと思った。センターは年々来院者が増えており、救急車による搬入も増えている。医者の立場からは、センターに来させないようにするにはどうすればよいか。（健康にしてしまえばよい。）病院を上手く使ってもらうにはどうすればよいかを考えた。また、患者の側の不平不満を聞いてみたいという想いがあった。それをセンターのような大きな場所で受け身で行うのではなく、小さな場所で能動的にやってみようと思い、院長の賛同を得た。府中駅前の喫茶店（カフェ）で、店が一番儲けの少ない時間を利用し、会費無料ただし一品注文することを条件に集まることとした。これが「健康増進カフェ」。当初参加者は3～4人であったが他NPOも来るようになり、繋がりの輪が広がり、今は10人以上となっている。

カフェでのテーマ（プログラム）は家庭医学的なもので、例えば、救急車の乗り方、介護保険、保険制度、ガンの話、死を考える（何処で死にたいか、死ぬのにどれ位費用がかかるか、どのように最期を迎えるか等）、子供の医療、かかりつけ医、医者の選び方、かかりつけ薬局など。また、病院では聞けないことを聞く場、自身の体験談を話す場ともなっており、医療について気楽に考え方を学ぶ場としている。この場では裏話やからくりをばらすこともあるが、皆さんにはそれらを踏まえて医者・病院を上手く使って欲しいと思っている。

医療チーム、医療はどうあるべきか（患者中心のチーム、患者自らが治ろうという気持ちを持たせるチームでなければならぬと思う）、良い医者とはどのような医者か（患者から感謝される医者は駄目。感謝できない患

者に対してどうするか。患者に感謝できる医者になって欲しいと若手研修医を指導している。）、医療機関はどうあるべきかといったことについて、私見の一端を述べられました。

自分たちは都立病院勤務で、地方公務員なのでやりたいことがなかなかできなかつた。しかしNPOを創ったことでいろいろな活動の場ができるようになって良かった。病院の中にいるだけでなく、外に出て行き地域がどうなっているかを知り、（例えば貧富の格差、特に子供達の貧富の格差、シングルマザー、シングルファーザー、一人暮らしの高齢者等に対して）どのような活動、お手伝いができるのか考えていかねばならない。カフェを通していろいろなテーマを投げかけて行き、興味を持ってもらいたい。縁は大きい。他団体とコラボしつつ、少しずつ地域を変えていきたい。例えば病院内のスペースをNPOが有料で借り、学習支援を行うことやプラネタリウムの開催など。また若い人の教育の機会を奪ってしまうようなことを解消したいと思っている。

カフェを通じて患者に賢くなつて欲しい。医者、病院と対等に付き合える環境を整えて武器を渡し、患者に闘つて欲しいと思っている。最終的に闘うのは患者本人である。そういう意味で垣根を低くして対話のできる医療体制、地域を作つて行きたい。

今やっている活動を通してまだまだいろいろなことができるのではないかと思っている。始めないと何もできない。失敗しても良い。その中でいろいろ繋がりができる。そして次に何かができる。この様な想いでワイズに来ている、とお話を結ばれました。

その後多くの質疑応答がありましたが、時間の関係で打ち切りとなりました。

お話では、いずれも日頃关心のある身近な事例やエピソードが取り上げられましたが、それらの実態や実情、問題点など、普段は知ることができない面を具体的に分かり易くお話し頂き、終始興味深く拝聴しました。

（記録：板村哲也）

強調月間：E M C – E、Y E S

E M C (E x t e n s i o n, M e m b e r s h i p & C o n s e r v a t i o n)

Eはクラブ拡張、つまり新クラブを設立すること。MCは会員増強と維持啓発、つまり新会員の獲得、会員意識の高揚をはかること。いづれもワイズメンの運動を直接拡大強化する事業であり、クラブの絶えざる課題です。新会員の獲得に当たって最強の方法は「新クラブ設立」ですが、新クラブ作りは長い地道な努力が必要です。当クラブは2年前IBCである香港TSTクラブと共同でモンゴルウランバートルクラブのスポンサーをしました。次はお膝元の東日本区で地道な努力を重ねて真剣にEを考えなければならない時期に来ています。

なお東日本区ではEMCを纏めて一人の事業主任体制ですが、国際、エリアではEとMCを分けてEのみの事業主任を置いています。

YES (Y's Extension Support)

ワイズ新クラブ設立を支援する目的で設けられた基金です。

国際では集められた基金の2/3が集めたエリアに戻されエリアでEのために使われることになっています。（TM）

2016年東京Y M C A夏祭り報告

大輪 匡史

トウモロコシの気持ち！

こんにちは、私達は北海道生まれのトウモロコシです。今回ご縁がありワイズメンの田中様から8月27日YMCA東陽町センター 夏祭りの皆さんに美味しく食べて頂ける為に上京しました。

YMCA職員の方 武蔵野多摩クラブ 八王子クラブの皆さんを中心に、薄皮1枚残して150本の仲間とお湯に浸かり 醤油付けて焼かれはじめますと、ジャズをお聴きのお客さまや他の店のお客さまも香に釣られて集まつらっしゃいました。国際大会に参加した若い方やすみれグループのお子さん、ワイズの方に販売してもらい、午後2時頃に完売されました。

我々を食されたお客様は皆さん 最高の笑顔でしたね、私達トウモロコシにとって 美味しく食べてもらい、夏祭りに参加させて頂き 少しでも祭りを盛り上げることができ 感謝します。

さあ～来年ももっと美味しく食べてもらいたく上京しますので宜しくお願ひします

トウモロコシ一同

参加者

麻生、伊佐、大輪、宮内、野尻、渡辺、山口、長谷川、久保田、藤永、須郷、ステファン

西東京Y M C Aスミレグループ参加

(メンバー2名、リーダー1名、スタッフ2名)

★夏祭り実行委員(長谷川・山口)



大雨のチャリティラン

山口 直樹

9月22日、天気予報では昼ごろから雨の予報であったが、朝から大雨。今まで中止がなかったとのチャリティラン。最後まで開催したいとの願いをみな持っていたが、やはり事故などの危険性も考慮して中止の決定。残念。でもここからが感動した。みな、ある程度覚悟してはいたこともあり、中止の発表を淡々と受け入れ、スムーズに撤収作業開始。それぞれが雨に濡れながら、何を手伝えばいいのか自然に役割分担。ボランティアに配布するパンと飲み物の配布を中心に武蔵野多摩のメンバーは大活躍。ちなみにそのパンはその週末の富士山例会でも皆の胃の中に納まり、ここでも自然に役に立っていた。私は、作業所から仕入れたサンドイッチなどを一番に貰い、宣伝をしながら販売に協力。おかげで完売。

後日担当の沖さんから、お礼のメールとともに協賛金(中止でも返金しないとの案内が事前になされていた)に関して丁寧な説明と、事情があれば相談させてくださいとのメールが届いた。もちろん我々は協賛金で出していたものであり、そのまま有効に使ってほしいとの返事はしたが、細かな気遣いにまた感謝。

中止になって別の感激に出会い、また我々のご苦労さん会で新たな人との出会いもあり、(ご苦労さん会のサイゼリアでちょっと飲みすぎたが)収穫の多いチャリティランであったと感謝している。(前日も飲みすぎました)

参加者：宮内、山口、板村、大輪、麻生、伊佐

ユースボランティアリーダーズフォーラム報告

渡辺 大輔

9月9～11日、東京YMCA山中湖センターにて第29回ユースボランティアリーダーズフォーラム(YVLF)が行われました。浅羽実行委員長(直前ユース事業主任)のもと、東日本区内の各Y M C Aから経験2年未満のリーダーが32名集まりました。私は、10日からの参加でした。東京武蔵野多摩クラブからは、渡辺、宮内(大輪、麻生：部分見学)が参加しました。

西東京センターからは、リーダー1名、カウンセラー2名、基調講演者として青山鉄兵さんが参加しました。

10日の昼食は初の試みとして、ワイズメンがリーダーたちへカレーを振る舞いました。

今回の主管は山手センターでしたが、次回は30回の節目の回で、また主幹も西東京センターとなります！当クラブとしても是非、多くのワイズメンの参加を期待しています。

写真は、西東京センター所属のワイズ、メンバー、リーダーの集合写真です。



<西東京YMCA便り>

出沼一弥

▼9月の西東京センタープログラム報告

9/4	「にこにこ」9月例会 「ロビンソン」9月例会	科学博物館(上野) 科学技術館(九段下)	16名参加 22名参加
9/11	「あおぞら・つばさの会」9月例会	羽田空港	19名参加
9/17-19	第27回こひつじキャンプ(山中湖センター)		9家族34名参加
9/25	「Smile」9月例会 「シャベルズ・いすみの会」9月例会	葛西臨海公園 豊島園	14名参加 16名参加

▼10月の主な予定

西東京センター

10/2	西東京フェスティバル（高尾の森わくわくビレッジ）
10/8-10	三菱商事・東京YMCA「秋の山中湖キャンプ(発達障がい児キャンプ)」
10/16	知的障がい児・者 余暇活動「あおぞら・つばさの会」10月例会
10/22-23	幼児野外活動「にこにこ」1泊会 小学生野外活動「ロビンソン」1泊会 中高生野外活動「TeenS」1泊会
10/29-30	知的障がい児・者 余暇活動「シャベルズ・いすみの会」1泊会
10/30	軽度発達障がい児 野外活動「Smile」10月例会

東京YMCA

10/8-10	日本YMCA大会(YMCA東山荘)
10/8-10	全国YMCAリーダー研修会(神戸YMCA 余島野外活動センター) 西東京センター中村健勝(えーちゃん)を派遣
10/10	ソフトボール大会(大宮グランド)

▼活動紹介

西東京コミュニティーセンターで行っている「定例プログラム」について紹介をしていきます。

今号は野外活動「ロビンソン」についてです。

* 野外活動...月に1回程度、近郊の野山や河原など自然の中で、年齢に応じたさまざまな体験をします。楽しく遊ぶだけでなく、仲間と協力したり交流を深めたりと、豊かな経験を通して、子どもたちの成長を願っています。

「TeenS(ティーンズ)」

英語のTeenS通り、中高生を対象にした年間8回行っている野外活動プログラムで、現在13名(男子7、女子6)が登録しています。小学校から中学、高校と子どもたちの置かれる環境も変わり、将来を考えると塾や習い事で忙しくなり、野外教育プログラムの参加は少なくなっています。TeenSの登録人数は少ないですが、現在高校生が5名、そのうち高校3年生が3名も登録しています。年齢から考えメンバー自身の希望で登録していることから、参加者にとって、TeenSが、「家庭」「学校」とは違う大切な居場所となっていることが分かります。

幼児・小学生の定例プログラムは、小集団(5人~7人)のグループを編成し、野外(自然を感じられる場)でのグループ活動を中心に行っていますが、「大人」になる前の多感な中高生にとって、自然を感じる野外中心の活動だけではなく、仲間と共に「楽しむこと」「自分を知ること」「相手を尊重すること」を重きに、料理・水遊び・ハイキング・ボウリング大会・街散策など、彼らの「日常」をフィールドにして活動を開催しています。普段の仲間とは違うTeenSの仲間との活動が、楽しい経験や挑戦、新たな気づきにつながり、より広い視野を持って自分の価値観を見出していくことを願って、活動をしています。

現在、元TeenSのメンバーがリーダーをしていますが、「人を育てるYMCA」としてとても嬉しく、今後さらにTeenSのメンバーが増え、そしてリーダーとなっていくことを願い取り組んでいます。

10～12月の予定

10月

- ・2日(日) ファミリーフェスティバル(高尾ワカヒレ)
- ・8～10日 YMCA大会(東山荘)
- ・12日(水) 第一例会(リーダー感謝会)
- ・22日(土) あずさ部会(在日本韓国YMCA)
- ・26日(水) 第二例会

11月

- ・9日(水) 第一例会
- ・30日(水) 第二例会
(トーンチャイム練習会)

12月

- ・4日(日) ファミリークリスマス
(第一例会: 医療福祉専門学校)
- ・17日(土) 忘年会(17:00～第二例会)